五キロのマラソン大会

W校　六年二組
松本　航汰

アメリカに来て、あっというまに八ヶ月がたちました。異国での生活にも慣れ、友達もたくさんいます。昆虫採集をしなかった夏は初めてで、こんなにたくさん旅行に行った夏も初めてでした。そんなアメリカ生活の中で特に力を入れたのは、Eastchesterの五キロマラソンでした。初めにマラソンと聞いた時は、日本で二、五キロのマラソンをしていたし、持久力には自信があったので、いける人じゃないかなと思い練習を始めたけれども毎日二キロ以上、土日は五キロぐらい走る練習はかんたんではありませんでした。毎日毎日記録を延ばすように努力したけれど、記録が延びない事の方が多くて、やる気を失うことも多くありました。

始めてから一ヶ月くらいして、マラソンに参加する友達たちと五キロを走ってみようと

20×20

いうことになりました。二十人くらいの日本人が集まって走った中、僕と、同じクラスだった友達がトップに出て、僕の方が少しリードして走りました。ブロンクスリバーを2周した所できつくなりペースが落ちていきました。無事練習は一着でつき、タイムも二十五分以内が目標で二十三分で走り切ったので、すごくうれしかったです。その日から土日は、友達たちと走る事が多くなり毎回五キロ以上走っていました。本番で走り切るためには、本番で横腹が痛くなる現象をどうにかしたいと思っていました。また二回に一回痛みが起きない事がありました。

本番の前日は、豚肉や白ごはんをいっぱい食べて栄養はつけましたが、当日の朝ごはんはおなかが痛くならないように、おにぎり一つだけ食べました。昔からぼくは、きんちょうするとおなかが痛くなったり、はき気がしたりするクセがありましたが、当日は千人ぐらいいたので少し落ちつきました。スマホを

持つと体が重くなってしまうので何もつけていませんでした。

ラジオ体操や国歌を歌い重要な場所とりが始まりました。日本人の群団は一番先頭にとれたのでかなり有利でした。スタート直後、子供の中ではぼくが一番で大人が十人くらい前を走っていました。その後、ぼくのペースが三キロくらいの所で乱れ、二十人くらいにぬかされましたが、ぼくの前にアンダー十二才はいませんでした。四キロ地点でぬかされたりぬかしたりが続き必死で走り続けました。前に子供がいないことが分かってゴールしました。ゴールした時は何位か何分か分からなかったけど、全員がゴールした後、結果がはり出されました。ぼくは全体で33位、アンダー十二才で一位を取り、記録は二十二分二十七秒で金メダルをかくとくしました。マラソン大会はこうして最高の終わり方でした。

20×20

平和とは

W校　二組

大東　龍ノ介

「そんな、ひどい…。」

ぼくはユニセフのウェブサイトの記事を読みショックでした。食べ物も水もなく学校にも行けない子や、兵士として戦場で戦っている子ども達のことが書かれている記事だったからです。

ぼくは平和とは世界中の子ども達が何不自由なく幸せに暮らして、戦争や紛争がないことだと思います。

世界中の子ども達が、何不自由なく幸せに暮らせるようにするには、募金が必要だと思います。ユニセフのウェブサイトによると、シリアで二〇〇一年から子どもが二万人以上も死んで、百七十万人以上が学校に行けないということが書いてあり、とても多くの子ども達が大変な目にあっていることがよく分かりました。

他にもシリアのイドリブで、まどが全て割られていて、きれいな水もなく、週に一度か二度ぐらいしか学校に行けないのに、学校がゆい一の心のよりどころだという子どもの詰がありました。

ぼくは思いました。世界には学校に行きたくても行けない子ども達がいます。ぼくは月曜日から金曜日まで学校に行きたくないと思っていました。今までよりももっとがんばりたいと決心しました。そして、ぼくが今しっかりと学校に行っていることが、どんなに幸せなことかが分かりました。

世界の子ども達を全員すぐに幸せにする事は、むずかしいという人もいるかもしれません、しかし、多くの生活に不自由のない人たちが、少しずつでもユニセフに募金をすれば、たくさんのお金が集まるはずです。ネット広告やポスターなどで多くの人に、募金をしてもらうこともできます。そのお金でシリアの子達たちに食べ物やきれいな水を届けたりこ

われた学校を直したりできると思います。ぼくと同じように幸せな子ども増えてほしいです。そのためにはまずぼくが募金をすれば、夢が現実になると思います。

次に、戦争をなくすには世界中の人々が、

「戦争はおろかだ。」

「戦争は悪いことだ。」

「戦争はただのにくしみ合いだ。」

など思ったり、外国の人と友達をたくさん作ればいいと思います。ぼくは、戦争や紛争はおろかだと思います。なぜなら、戦争をすることでどちらの国の人も悲しい思いをしたり、家族や友達が死んでしまったり、自分も死んでしまうからです。

ユニセフによると南スーダンで今年の八月七月に百人以上の子ども達が子ども兵士から解放されたそうです。今南スーダンでちょう兵されている一万九千人のうちの約九百人が今年、解放されたということで、まだまだたくさんの子ども達がじゅうを持って戦

ているのです。その子ども達を全員助けるには、支援が今後三年間に一万九千人の解放、武装解除や社会復帰の支援活動に四千五百万米ドルを必要としているそうです。

世界中でたくさんの人たちが、他国で言葉がちがっても友達になればいいと考えました。もしもぼくとその友達がその国を動かせることができるようになったら、他国との会議で友達に戦争などしたくないと思う意志を伝えられるからです。

今ぼくが住んでいるニューヨークは、日本とちがいいろいろな国の人が住んでいるので、友達や新友になりたいです。

ぼくは世界中の子ども達がぼくのようになに不自由なく幸せに暮らせ、戦争がなくなればいいと思います。そのためにはぼくや友達などが募金をしたり、世界中の人が戦争は悪いと思ったり世界中にたくさんの友達を作ればいいと思います。それが平和につながり、たくさんの子ども達が幸せになれると強く思

います。これからも平和について考えていきたいです。

20×20

水質汚染

W校　六年一組　宣永　春樹

私たちの体は、約七十パーセント近くが水でできているのです。私たちの身体は水がなければ生きていくことが困難なのです。

そんな中、世界ではきれいな水がないので生活排水などを飲んでいる国もあるのです。

しかしながら、私たち日本人は、水が汚くな。ているのに、危機的に感じていない現状があります。

ぼくが水質汚染のことに気づいたのは学校でのプロジェクトの題材にした時でした。水質汚染に関する情報などは、インターネットなどで調べ上げ、できるだけいろんな情報があるサイトを選びました。ぼくは、そこで初めて水質汚染の現状や原因などを知りました。以前から少し気づいていたのですが、ここまでひどかったとは知りませんでした。その時から汚れて出ていく水を減らさなければいけないという心が生まれました。

ぼくに対して反対の意見があるかもしれません。例えば、「どのように汚れて出ていく水を減らすのか」「経済と環境を破壊するかもしれない」などです。

ぼくにはちがんと考えがあります。

「どのように汚れ出ていく水を減らすのか」については、生活排水をへらすことが大事です。さらに、合成洗剤など川や海を汚染する物を利用しないことが大切です。

次の「経済と環境のバランスをとるように取るか」については、いろんな人に実状を知ってもらうことが大事なのです。ポスターなどを作ってだんだん現状をみんなに知ってもらうのです。ポスターの中に、環境をいきなり壊すのではなく、環境を保護しながらできる方法を考え出すのがいいと書きます。

私たちは水質汚染の現状に気づき、汚れて出ていく水を節約するだけでも、生活排水、つまり汚れた水を減らすことが出来ます。

最後に、私達が汚れて出ていく水を減らす

には、一人一人が水を大事に使うことが大切だと思います。

20×20

未来がよりよくあるために

W校　六年　一組　井口享俊

ぼくは、森林破壊をやめることが未来がよりよくなることにつながると思います。理由の一つに、我々人間が出す二酸化炭素を酸素に変える木を切ると、温暖化がいっそう進むということがあります。そうなると、森が枯れて、悪循環のスパイラルです。森林破壊をやめてしまえば、温暖化の悪化も和らげられるので、一石二鳥です。

かつては、地球上にある陸地の三十パーセント以上が豊かな森林でした。森は適度な温度ときれいな空気、そして清浄で栄養たっぷりの水を貯え、川となって海に還元していました。しかし、人口が増え、宅地や農地として森林が開拓されていきました。このようになると、動物が少なくなり、人間の食べ物も減ります。また、山の土は簡単に雨で流されてしまいます。大雨時には土砂くずれなどの災害の原因になります。さらには、川や湾さ

水もなくなってしまうので、水不足にもなるでしょう。日本では、土地のほとんどが山であって、道路や宅地を作るために沢山の木を切ってしまいます。ゴルフ場やスキー場建設がいい例です。

他国では、放牧地や農地を作るために森林破壊をしています。酸性雨が原因で荒廃されたりしているのが現実です。森林破壊は割ばしの使いすぎというイメージがついた時期もありましたが、商業伐採で伐採された木は割ばしだけではなく、トイレットペーパーや紙パック、ティッシュペーパー、本、雑誌、包装紙などで多く利用している「紙材」として木の利用が多いのです。

ここで、木がなかったらこまる人じゃないか。木をまた植えればいいのではないか。このような質問が思いうかぶかもしれません。確かにそうです。

しかし、木を新しく植えるのは、木を切るより手間がかかります。そのため差は開くば

かりです。今は、世界中のNPO法人が、植林活動を行ったり、環境意識の高い人たちの手によって再び緑をよみがえらそうとしています。

紙の原料は木なので、なるべくリサイクル用紙を選んだり、使った紙は出来るだけリサイクルにまわしましょう。牛乳パックも、スーパー等ではリサイクルコーナーとして回収しています。そのような所にちゃんと回収してもらうのがベストです。燃えるゴミに出すのは一番最悪な状況になります。それを燃やすためにまた二酸化炭素を排出するからです。現在のリサイクル状況は、全体の紙に対して半分くらいしか出来ていないそうです。もっと、リサイクルに力を入れる必要があります。

「グリーンマーク」や「エコマーク」などの環境マークを目印に森保護に配慮された商品を出来るかぎり買いましょう。

ぼくが森林破壊をやめるために出来ることは少ししかないでしょう。しかし、世界中の

人々が努力すれば、森林破壊はやめられるだろうと思います。今は、人間が勝手に人間の「便利」を手に入れるための開発が、森林破壊につながっています。自分で自分の首をしめている状態といえるでしょう。

このまま続くと現在世界中で起こっている大型台風や竜巻の発生、豪雪や猛暑、大洪水などの異常気象が引き続き起こりうる可能性がありますよ。このような地球の異常は干ばつや凶作など人の暮らしにも大きくえいきょうします。地道に地球の緑を再生することで、未来への遺産として、豊かな森林が残る希望が世界の荒地に芽生え始めています。

20×20

地球を大切にしよう

W校　五年二組　永井　文

なぜ人は地球をよごすのだろう。どうや。
てよごしているのだろう。

人間は、地球を大事にしようと、他の人に言うけれど、ぼくもあなたも地球を知らないうちによごしています。まずは自分たちから、地球を守らないといけないのです。人間は、海水と空気を一番よごしています。

空気をよごしている物の例を挙げます。一つ目は工場の煙です。二つ目は、車から出る排気ガスです。そして、タバコから出る煙などです。そもそも、タバコの煙は体に悪いし、空気や他の生き物にも害を与えるので、無くした方が良いと思います。しかし、工場や車から出る煙や排気ガスは、人々の役に立つものを作ったり、人の生活を便利にしたりするために出すのです。工場から煙を出せなかったら、商品を作れなくなるし、車がなかったら移動がすごく難しくなる。てしまいます。

でも、ぼくは便利な物を作りながら、煙を少しずつなくす方法を見つけてほしいです。

水も生き物にとって、大変大事なものです。空気と水がよごれたら、生き物が長く生き残る確率が低くなります。水をよごしている生物の例を挙げます。ゴミ、プラスチックバックや、人々の生活から出る下水などです。

ここでみなさんに質問です。ゴミが下に落ちています。となりにゴミ箱があります。ゴミ箱に捨てますか、それとも放っておきますか。ゴミ箱に捨てるに決まっていると言う人が多いと思いますが、ほとんどの人は実際にそういう場面になると、人が捨てたきたないゴミにふれたくないから、放っておくのです。ぼくも、何回か放っておいたことがあります。でも、そのまま放っておくと、最終的には、海や湖や川などに入って水をよごすことになります。プラスチックバックも、ちゃんとゴミに捨てないと、海などに入ります。プラスチックバックが一番よくない理由は、魚が食

べ物だと思って食べて死ぬことです。どんどん魚が死んで、全部絶滅してしまうかもしれないからです。だから、ぼくはプラスチックバッグではなくて、紙や再利用できるバッグに変えた方が良いと思います。なぜかと言うと、再利用できるバッグは、長い間使えますし、紙のバッグは、水の中で溶けるから、魚が食べて死ぬ確率が低くいからです。プラスチックバッグは、ゴミのうめ立て地でも何千年、何万年たっても元のまま残ってしまいます。なるべくプラスチックバッグを使わないようにした方が良いと思います。

今この瞬間で、どこかのだれかが確実にゴミを捨てていると思います。だから少しずつ、プラスチックバッグやタバコを減らしたりゴミ箱に捨てたりして、少しずつ地球をきれいにすれば、いつか地球はきれいな水と、きれいな空気があるきれいな星に戻ると思います。ぼくも毎日少しずつ、地球がきれいになるように、気をつけていきます。

ぼくの転校人生

ん校　五年二組
井澤　快成

ぼくはアメリカで生まれました。ぼくは今まで四回引っこしました。最初のアメリカはおぼえていません。二か所目はドイツです。ドイツに行った時の学校はドイツ語と英語の学校でした。ぼくはその時、英語もドイツ語もしゃべれなかったので、ばかにされると思ってこわかったです。しかし、学校に行ったらみんな優しかったので安心しました。先生は手品ができて一週間に一、二回手品をやってくれてとても楽しかったです。次の生先はギターがひけて、勉強している時に、音楽を聞かせてくれました。

次はフランスに行きました。フランスでは、最初はものすごく遠い学校に行きました。その学校はフランス語だけでしたが、今回はばかにされると思いませんでした。なぜなら前回ドイツの時、ばかにされなかったからです。

しかし最初はフランス語がわからなかったので困りました。ぼくはみんなが何を言っているが気になってしかたがありませんでした。しかも宿題も意味がわかりませんでした。帰たく前にお母さんをまっている時に、片手がない優しいフランス人にてつだってもらってましました。その人はいつも宿題が終わったらバゲットにチョコレートをはさんでくれました。いっぱい人がいたので、みんな宿題が終わったらみんなで遊ばせてもらいます。次の学校は、英語とフランス語の学校でした。今回はフランス語と英語が少しわかっていたので、すぐに友達ができて、友達に時々フランス語を教えてもらったり、逆に英語を教えてあげたり助け合い、フランス語が上達することができました。しかし、一つ問題がありました。フランス語と英語ばかりなので日本語が下手になってしまうのです。ある日ダイキと言う友達に、

「君日本人。」

と聞かれて嬉しくなり思わず大きな声で

「そうだよ。」

と言ったのでおこられてしまいました。でも、ぼくはうれしすぎて先生の声が耳に入りませんでした。その休み時間に自己しょうかいしました。今までの全ての学校で初めての日本人でうれしかったです。ダイキとはすぐに仲良くなりました。それから三人に日本人が増えて嬉しくなりました。その中で一番仲がかったのはダイキですが残念ながら今は、日本の東京に引っこして行きました。フランス人の中でとくに仲が良かったのは、アルノーとマティアスです。いつもマティアス、アルノーとダイキと遊んでいました。体育でもマティアス、アルノー、ダイキとぼくが一番でした。ある日、フランスでポケモンカードがはやっていた時、マティアスがある提案をしました。チームにわかれてポケモンカードの強いカードを集めて、一年の終わりに比べてカードが多いほうが勝ちというゲームでした。

20×20

最終的に引きわけになりました。残念な事に、ぼくが引っこすと同時に、アルノーがニューヨークに行き、ダイキが東京に行きました。今年の夏休みはアメリカにいて日本に行きフランスにも行きましたが、ニューヨークにアルノーがいなくて、日本にダイキがいなくてマティアスもフランスにいなかったので、だれにも会えずすごくがっかりしました。

転校とは他の人たちにとっては辛い、大変な事かもしれません。しかし、ぼくにとっては世界中に友達を作るチャンスです。そして世界中に友達がいるというのはとても得な事です。なぜなら、世界の他の国の事を知りたい時には話ができて、その国に遊びに行けば友達がもうそこにいるからです。今度は誰がアメリカに来てくれるのかとても楽しみです。

大切な時間

W校　五年二組
福島　圭人

ぼくは、現地校で六年生になり、ミドルスクールに通っています。

ぼくにとって今までと一番違うことは、学校へ歩いて通っていることです。今まではスクールバスに乗っていたので、学校へ歩いて行けるのか不安でした。でも、家が近くの友達数人と一緒に行くことになったので少しホッとしました。

学校が始まる前日、ぼくは弟と母と一緒に朝の待合わせ場所まで歩く練習をしました。どのくらい時間がかかるかも調べてみました。集合場所までは五分でした。思ったより早く着くんだなと思いました。ただ、途中に石段があって少し歩きにくかったです。雨の日や雪の日は、すべりそうなので、別の道も探してみようと思います。

初めてのミドルスクールへの登校日、朝七

時二十分にクーパーが迎えに来てくれました。もう一人の友達と三人で集合場所に向かって歩き始めました。クーパーのお母さんも犬の散歩のついでに一緒に来てくれました。心配だった石段を無事に上がると、そこが集合場所です。他の友達もちょうどやって来て、ぼくたちはさらに学校へ向かって歩き始めました。学校までどのくらいかかったのかわからなかったけれど、無事に着きました。

今ではすっかり歩くことにもなれたけれど、カバンが重たいのが一番つらいです。大きなバインダー、パソコン、ランチ、一日おきにバイオリンを持っていくので大変です。でも、学校への行き帰りに友達といろんな話をしながら歩いて行くのは楽しいです。学校では、授業の間の時間が三分しかないので、ゆっくり話すことができません。ぼくにとって、学校の往復に友達と歩く時間はとても貴重な時間なのです。

初めての宿泊キャンプ

L工校　五年二組
堀江　沙良

私は今年の夏休みに、初めて二週間の宿泊キャンプに参加しました。一人で何もできないからと、私の自立心を伸ばすために、両親がフロストバレーのキャンプに申し込んだのです。両親は、自立心を養うだけでなく、規則正しい生活を送れるようになるように、私が苦手な虫や自然にもなれ親しんでくれるようにと、私を宿泊キャンプに入れました。

両親とこんなに長くはなれるのは生まれて初めてで、最初はあまり行きたくありませんでした。けれども、補習校のクラスメートから楽しそうな話を聞き、だんだん行きたくなってきました。キャンプの日が近づいてくると、ますますわくわくしてきました。行く途中までは楽しみだったのに、ゲートに着いたら知らない人ばかりで、人見知りをする私は突然どきどきしてきました。でも、私のグル

ープの所へ行くと、知っている友達がいたので少しほっとしました。最初は知っている人がまりいなくて、きん張していたけれど、二日目のナプキンボックス作りで少し友達ができ、日が経つごとにどんどん友達が増えて、みんなと仲良くなれました。

フロストバレーの一日はモーニングセッションで始まり、ジョギングがエクササイズかを選ぶのですが、私は毎朝走ることにしました。朝が苦手な私にとって、早起きはとても辛かったけれど、朝のジョギングは気持ち良くて楽しかったです。モーニングセッションの後は朝食で、その後そうじの時間がありました。私は片付けが苦手で、家では散らかしっぱなしだけれど、どの部屋が一番きれいだったのか発表されるというので、一生けん命そうじしました。私のグループは何度も一位をもらい、とてもうれしかったです。そうじの後は一日中、次から次へとアクティビティーが続き、全く退屈しませんでした。

一番思い出に残っているアクティビティーはフライングスクワールです。逆バンジージャンプみたいなもので、体をロープにつながれて、つな一本の高い所へ上がっていくので、最初はこわかったけれど、勇気を出して挑戦してみました。下にいるグループメート達が私の命のつなをにぎっているので、みんなを信じなければなりませんでした。信じることによって、友達とのきずなを深めることもできたように感じました。それに、高い所から見える風景はとてもきれいで、挑戦してみて良かったなあと思いました。

二週間の中で一番楽しかったのは、スリープアウトでした。今まで野外でなんかねたことがなかったし、虫やどろが苦手なので、最初はとても不安でした。でも、楽しみにしていたカレーを作っているうちに、すごくおいしそうなにおいにお腹が空きすぎて、そんな不安はいつの間にか忘れてしまいました。みんなで協力して作ったカレーは最高においし

くて、今まで食べたことがある、どのカレーよりもおいしかったです。それに、なべ底のごはんのおこげもとてもおいしかったです。初めてのスモアーズ作りでは、キャンプファイヤーでマシュマロを焼くのも楽しかったし、出来上がったスモアーズもとてもおいしかったです。スリープアウトでは、色々初めての経験をすることができて、良い思い出になりました。

このように、私はこのキャンプで、今までできなかったことに色々挑戦し、苦手だったことが少しずつできるようになって自信がつきました。それに、いつも朝ね坊の私が、早ね早起きして規則正しい生活をしたり、毎日自分の回りの整理整とんをしたり、おそうじをがんばったので、両親が立てた目標にも近づけたのではないかと思います。私はこのキャンプに参加して、少し大人になれた気もします。そして何よりも、二週間一緒に過ごした大切な友達と出会えて本当に良かったです。

来年は二週間とは言わず、夏休み中ずっと行っていたいくらいフロストバレーキャンプが大好きになりました。

20×20

ぼくの英検

W校　五年一組

皆川　優伊

ぼくは今年、英検の三級を受けました。去年は五級を受けたけど、がん単だったので三級にしました。英検の一ヵ月前に練習を始めました。三級では五級でやらなかった問題がありました。それはライティングです。ライティングは出された問題について、自分の考えを英語の文章で答えるものです。ライティングは、ぼくの一番苦手なものなので、練習するのに時間がかかりそうだと思いました。練習するさん考書のページはだいたい四十ページあったので、毎日二ページずつやりました。練習していくうちに、もう一つぼくの苦手な問題が出てきました。それは接続詞と前置詞です。さん考書には、その問題がいっぱいあって、すごくむずかしく、何こもまちがってしまいました。逆にぼくが得意なのは名詞です。毎日アメリカの学校で英語を聞いて

いるので、三級で出てくる名詞は、ほとんど知っていました。名詞がいっぱい出るといいなと思いながら、試けんの前の日まで練習をつづけました。

試けんの当日、ぼくは英検のため学校を早退しました。試けん会場には、ぼく以外にもたくさんの人たちが英検を受けに来ていたので、ちゅう車場がなかなか見つかりませんでした。ぼくがクラスについたのは、試けんが始まる二十分前でした。ぼくは目が悪いので特別なかい答用紙を使いました。テストが始まった時、ぼくだけ問題用紙がないことに気づきました。あわててかんとくの先生にそのことを伝えました。無事に問題用紙が配られてほっとしました。筆記試けんは思ったよりも時間がかかったけれどはとんどできました。あとハ分しかないとき、ライティングもなんとか終わりました。筆記試けんでは、接続詞と前置詞の問題は、二問しかでませんでした。あんなに練習したのにと思いました。リスニ

ングは、一つ以外全部聞き取ることができました。

「試けんをやめて下さい。」

と、かんとくの先生が言いました。ああやっと終わったと思いました。一番むずかしかったのはやっぱりライティングでした。とても答えにくい質問でした。でもあきらめないで最後まで書けたぞと思いました。来年はもう一つむずかしい進二級にちょう戦したいです。

中学生になったこと

W校　五年一組

ヌクラヘニィ　惟行

ぼくは、九月から中学生になりました。ぼくの町では、六年生から中学校へ行きます。小学校とちがうのは、中学ではホームルームがないことです。科目ごとに教室が変わり、科目ごとに先生もクラスメートも変わります。クラスとクラスの間の休み時間にロッカーに行って、自分のノートやバインダーを取ります。

ぼくの一番すきな科目は生物です。なぜかというと、今ごとても楽しいプロジェクトをやっているからです。さいぼうのモービルを作るというプロジェクトで、とても興味があります。

二番目にすきな科目は、エクスプローリングミュージックという科目です。この クラスでは今、ウクレレを習っていますが、コンピューターで音を作るプロジェクトもあります。

先先がとても面白いです。

ロッカーがあるというのは、小学校との大きなちがいの一つです。小学校の時のロッカーには、ドアがなかったので、みんなの物がなくなることもありましたが、中学のロッカーにはカギがついていて、なれるまで大変だったけれど、大事な物を入れても、なくなる心配がなくていいです。しかし、ロッカーにはたくさん物が入るので、整理しないと、必要な物が見つからないことがあります。ぼくの友達は、ロッカーがあまりにきたなくて必要な物が見つからず、先生にしかられました。ぼくは、そんな目に合わないように、ロッカーをきれいにします。

宿題は毎日出ます。でもまだ、ほしゅう校の宿題ほど大変ではありません。ぼくの姉は「六年生はまだそんなに宿題は大変じゃないよ。」と言います。みんながら、七年生から大変になるよ、と聞いているので、ちょっとこわい。

20×20

なと、思っています。

学校で一番楽しい時間は、ランチタイムです。友達といっしょに、話をしながら食べるのは楽しいです。この時間は、宿題をかってでも、外に出ても、図書室に行ってもいいのです。自由なのです。授業でわからないことがあったら、オフィスアワーズという先生の部屋に行って質問ができる時間にもなります。

ぼくは、六年生になってすごくうれしいです。自分でやらなければいけないことがふえたけど、自分でできることがたくさんまってとても楽しいです。

20×20

生まれかわるという事

W校　五年一組　長谷　杏更

ぼくは夏休みに、山口県へ行きました。ひいおじいさんの、七回忌の法事に出席するためです。法事は、亡くなった人が天国で楽しくすごすことを願い、みんなでその人を思い出す日本特有の行事です。

ぼくがひいおじいさんに会ったのは、とても小さいころだったので、少しも覚えていません。だからぼくは、どうすればいいのか不安に思いました。

法事では、ご住職さんが来られて、お経を唱えてくれました。お経の間、ぼくは、ひいおじいさんのことを、心の中で思い出そうとしました。お経が終ると、ご住職さんがお話をしてくれました。

「大切な人が亡くなると、人はとても悲しみます。その悲しみは、人によってとても深く長く続くことがあるけれど、人は亡くなると

天国へ行き、また生まれ変わる。」と言うお話でした。

大切な人を失った時は、いつまでも悲しむのではなく、その人のことを心の中で思い出すことで、温かくやさしい気持ちになることが、大切だということを知りました。

ご住職さんのお話を聞いてぼくもおじいさんのことを思い出しました。心の中のおじいさんは、病院のベッドの上で横になっていました。でもおじいさんは、力を入れてぼくに手をふりました。まるで、本当に生きてるように、ぼくにがんばれよと、言っている様に思えました。すると、自然と力がわいてきて、何でもできそうなまがしてきました。

生まれかわるという事は、人の心の中で、みんなを力づけたり、人をやさしい気持ちにさせたりすることなのかもしれないと思いました。

ぼくは法事に参加できて、とてもよいけい

けんをしたと思います。

20×20

ぼくとトロンボーン

L工校　五年一組　小林のあ

「YOU are in!」

と、バンドの先生が肩をたたいた。

「やった！ジャズバンドに入れたぞ。」

と、ぼくは心の中でさけんだ。

ミドルスクールに入ったら、何かにチャレンジしたいと思っていたので、すごくうれしかった。ジャズバンドは七年生と八年生でやっているバンドだから、本当ならぼくたち六年生は入れない。だけど、やる気のある生徒だけオーディションが受けられるので、先輩にすすめられて試験を受けてみた。課題曲は、「Dynamo」という難しい曲だった。それに、このジャズバンドに入れたとしても、毎週火曜日の朝七時十五分から練習があるのだ。これからちゃんと起きられるのかなあと少し心配になった。

四年生から始めたトロンボーンだったけれど、あまり家でも練習したことがなかった。

というのもレンタルしてもらっていたトロンボーンがとっても重くて、運ぶのも大変だったためかもしれない。ミドルに入っても楽器を続けるのならば、トロンボーンを買ってもらえる事になり、がんばって練習をし始めた。

少しずつ、吹けるようになったら楽しくなって、練習する時間も増えた。最初は難しかったスライドを使って音を出すこの楽器。重りし腕が疲れるしとても大変だ。

初めての朝練の日、とっても緊張した。六年生は結局、ぼく以外にいなかった。でも、先生もやさしくて、先輩たちもみないい人ばかりですぐに楽しさに変わった。今では火曜日が時ちどおしいくらいだ。早くも、と上達して、たくさんの曲を吹けるようになりたいと思う。

20×20

世界で一番美味しいカレーライス

L工校　五年一組
川上　愛

私は今年の夏、東京フロストバレーサマーキャンプで「世界で一番美味しいカレーライス」を食べました。大自然の中で、たくさんの友達と協力して一緒にカレーライスを作りました。

私は、こんな森の中で、どうやって カレーライスを作るのだろうと不思議に思っていました。まず、みんなで火をおこすための枝を集めました。大きい枝は、二メートルくらいの物もありました。私は人参とじゃがいもを切るたん当になりました。リーダーは、野菜の切り方をやさしく教えてくれました。家でも野菜を切ったことがあるので、私も年下のメンバーに教えてあげました。形や大きさはばらばらになってしまったけれど、みんながをしないで切れました。そして、玉ねぎがらいためました。すると、玉ねぎのいいにお

20×20

いがしてきました。集めてきた枝を使って、飯ごうを火の上に置き、ほかほかご飯を作りました。そんなご飯のたき方を初めて体験しました。湯気が出てる、すごくほかほかだと、私はおどろきました。

広い青空の下できれいな空気と緑がたくさんの山の中で、友達と一緒に食べたカレーライスは、ほっぺたが落ちてしまいそうなくらい美味しかったです。みんなの気持ちが込められたカレーライスだからだと思います。

「美味しい。おかわり。」

と言って、みんな大もりのカレーライスをおかわりしました。ちがうグループの所には、山おくから野生のくまが出てきたみたいなのです。くまにも美味しいにおいがとどいて、山おくから出てきたんだと思いました。くまにもばれてしまうくらい、本当に美しいカレーライスだったのです。

その時のみんなの笑顔と美味しいカレーライスの味は、今も心の中に残っています。と

ても大切な忘れられない思い出ができました。思い出すと、今でも顔がにっこりとしてしまいます。

20×20